

図書館だより No. 6

☆☆「新書」を活用しよう☆☆

新書とは文庫より大きく単行本より小さいサイズの本です。テーマに沿って書かれた文章が、論理的かつコンパクトにまとまっています。その分野の入門書にもなります。新書を読むことで、知りたい分野の知識を学びとる力、論理的文章を理解する力が身につきます。探究学習や入試対策に欠かせない資料として、新書の活用をおすすめします。

☆☆ 代表的な新書のシリーズ ☆☆



都立白鷗高校A棟図書館
2025.11.12



文庫の裏側の書架に分類順に並んでいます。

新書名	特 徴	最近図書館に入った本
岩波ジュニア新書	中高生向け新書、教養書として定評がある	『ことばで愛し、ことばでたたかう 日本文学の宝石箱』
ちくまプリマー新書	中高生が興味ある身近なテーマが多く読みやすい。	『読み手に届く文章技術』
ポプラ新書	児童書の出版社。現代的テーマを扱う本が多い。	『わたしが正義について語るなら』
ちくま新書	初心者向けが充実。「入門」「講義」の書名多い。	『ぼっちのアリは死ぬ 昆虫研究の最前線』
ブルーバックス	幅広い自然科学分野の本。理系の必読本	『土と生命の46億年史 土と進化の謎に迫る』
岩波新書	日本で一番目と二番目に歴史があるシリーズ。	『ビジネスと人権 人を大切にしない社会を変える』
中公新書	学術的な内容で入試問題に出題されるものも。	『世界の教育はどこへ向かうか 能力・探究・ウェルビーイング』

そのほか、角川・講談社現代・光文社・集英社・新潮・ハヤカワ・文春・平凡社・などなど色々あります。直接見に来てください。

新着図書Pickup！

『「話が面白い人」は何をどう読んでいるのか』

三宅香帆／著 新潮新書

この本では2022～25年に著者が読んだもの観たものの「面白い」話を読むことができます。「面白い話をするには技術が必要なんです。ーその技術を私は本書にまとめました」（本文）著者の考える『鑑賞』の技術で作品について語っています。物語の鑑賞「5つの技術」①ほかの作品と比べる＜比較＞②テーマを言葉にする＜抽象＞③書かれていないものを見つける＜発見＞④時代の共通点として語る＜流行＞⑤普遍的なテーマとして語る＜不易＞、これらを意識して読むことは読解力を鍛えることになるでしょう。紹介されている本で読みたい本があったら教えてください。

『見えにくい、読みにくい「困った！」を解決するデザイン 改訂版』 間嶋沙知／著 マイナビ出版

この本では情報伝達での色、文字、ことば、図解、UI（ユーザーインターフェース）の「困った！」を「こうしよう！」に変えるヒントがあります。情報を受け取るさまざまな人や状況を知ること、ユニバーサルデザインやアクセシビリティの観点を持つことで、多くの人に届ける力になってくれます。最初の「みんなのデザイン」の章では「困った！」が生まれる原因やみんなのためのデザインが求められる背景の解説、6人の登場人物の「困った！」リストがあります。そのリストにはページが示され、そこに具体的に改善前、改善後が提示されています。「そうだったのか！」と思うことも多く、まずは知ることからスタートしたいと思います。